

アートを適用した新たな科学研究教育国際

研究代表者	総合情報学部 教授 林 武文
研究概要	<p>近年科学の発展とともに、最新科学技術を利用したアートが注目され始めたが、若年層の科学離れには歯止めがかからない。今後は、アートの力を科学（サイエンス）に投入することが重要である。本研究では、科学シーズとして、東京大学の最先端透視技術ミュオグラフィーを取り上げ、本学総合情報学部教員が保有する3D-CG、3D-イリュージョン、絵画等を音響化する技術と融合して、新たなサイエンス&アート融合空間の創生を図り、将来の科学教育効果を定量化する。</p> <p>ミュオグラフィーの観測対象が火山、地球外惑星、歴史的構造物（古墳）など広範にわたることから、将来展開として、東京大学と連携しながら、この科学シーズをアートに展開し、新たな科学教育方法を提案する。</p> <p>（東京大学地震研究所からは、650万円相当額の機材の貸与が予定されている。）</p> <p>さらに、欧州原子核研究機関において既に実績のあるArts at CERNプログラムとの連携を目指して、欧州研究機関との共同研究を進める。</p> <p>得られた研究成果は、学長室U R Aや広報課等を通して、グランフロント大阪や美術館等で公開展示し、理解を醸成していくことを目指す。</p>
学内研究員	総合情報学部 教授 堀 雅洋 文学部 教授 米田 文孝 総合情報学部 准教授 井浦 崇 文学部 准教授 井上 主税
学外共同研究者	東京大学地震研究所 教授 田中 宏幸 ハンガリー科学アカデミー ウィグナー物理学研究センター 科学アドバイザー Dezso Varga アーティスト Sara Steigerwald 日本美術家連盟会員 大阪芸術大学非常勤講師 ホルベイン・アドバイザー 中島裕司 多摩美術大学美術館 学芸員 淵田 雄 NHK大型企画センター ディレクター 久泉 巧
設置期間	2017年4月1日～2021年3月31日
設置場所	総合情報学部 林武文研究室